

「牟礼地区生活道路緊急安全対策」

実証実験検証結果 (ETC.2.0 解析)【国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所提供】

- ・設置時期 (R6.1.19~3.28)
- ・使用データ (R5及び R6 同時期2月1日~2月28日のデータ比較)
- ・ハンプの設置効果 (物理的走行速度抑制、抜け道利用者へ心理的不快感による車両流入抑制へ期待)
※交通量の変化について、短期的設置の可搬型ハンプでは判断は難しい
- ・現況課題

東行き (高井戸方面)

- 当該路線流出時の**速度が高い**
- ・東八道路との交差点部に高い速度で進入する車両が多い

西行き (三鷹方面)

- 当該路線流入時の**速度が高い**
- ・東八道路からの進入後に速度を上げる車両が多い



可搬型ハンプ設置後の分析結果

- (1) 通行の傾向に変化なし (迂回していない)
- (2) 通過交通抑制への効果は短期的設置では難しい
- (3) 西行きは特に夕方 (15時~19時台) の利用が多く、利用時間に変化なし (常連利用者)
- (4) 走行速度は急ブレーキの挙動の変化が大きく、安定した低速度の走行が見られる (30km超過車両の減少が見られた (33%→14%))